

介護ソフト・システム 徹底活用!



「カーデックス」機能を強化
入所者の状態をひと目で把握

同製品は現場の声も取り入れながら随時バージョンアップを続けているが、リリース当初から今日までに大きく強化されたのが「カーデックス」機能だ。従来、カーデックスファイルで管理されていた入所者情報をわかりやすく整理して表示する機能で、ケア記録やバイタル、食事・排泄の状態推移などをひと目で

確認できる。

「物理的なカーデックスをすべて電子化して冊子などの電子端末に収めるイメージです。グラフ表示などで状態を把握しやすく、必要な情報を取り出しやすいのがメリットです。ゆくゆくは記録した情報から利用者の状態を判断し、警告などのアラートパネルも出るようにしたいですね」と笠原社長は語る。さらに、ファーストケア本体と連動し、記録の内容がその他帳票に反映される仕組みも強化されているそう

「食事・排泄」および「バイタル」の状態推移。選択した区分ごとにグラフ表示で記録を確認することが可能

表 「ファーストケア・トータルマネジメント」で提供される主なサービス

利用者総合台帳機能	利用者個別表 ケアレポ.Net リスク管理表	各事業所に登録された利用者情報を総合台帳で一括管理。全体の実利用者数やサービスの利用傾向を簡単に把握できる。また、事故報告書やヒヤリハット報告書を一括管理できるため、安全対策やマニュアル作成、注意喚起に役立てることもできる
総合売掛入金管理機能	売掛集金管理機能 個別売掛入金管理機能 請求書発送 支援機能 総合集金代行連携機能	毎月の利用者請求情報を一括管理し、請求事務センターを構築する機能で、センターは1箇所でもエリアごとに複数設定することも可能。提携している集金代行サービスと連携することや、利用者請求の未収金の管理にも役立つ
経営支援機能	売上集計機能 売上年間統計 事業種別売上集計	売上の報告・稼働率などを一括管理。ASPシステムに対応し、各事業所の管理担当者からのコメントつきで経営状態を把握できる
人事管理機能	職員一覧 パーソナルデータ 異動履歴 人事考課履歴 研修履歴	各事業所のファーストケアと連動し、全職員を管理。複数の事業所を兼務している職員の把握や、特定の資格を保持している職員の検索、教育や人事異動の履歴など、簡単に管理できる。履歴書や資格証の写しも登録できるため、ペーパーレスの管理が可能

また、同じく要望が高いのが、**報酬改定に向けて順次リリース 合理的・戦略的な経営を支援**

同製品は現状、施設系サービスのみだが、4月の報酬改定に向けて通所系、居宅介護支援と、在宅サービスにも順次対応する予定。「在宅系の事業者様からの要望が非常に増えています。次にリリースする通所系アプリでは、サービスの実施記録を作成しながら個別機能訓練や入浴介助加算の登録も可能です」と笠原社長は説明する。

「当社の『ファーストケア』シリーズは日々進化しており、新しい可能性に満ちています。ぜひ当社製品をはじめ、ITを上手に活用することで、合理的・戦略的な経営に活かしてほしいと思います」（笠原社長）

Case 3 株式会社ビーシステム

モバイル端末による現場での簡単入力を実現し記録業務の大幅な効率化と情報共有に寄与

介護業務管理ソフト「ファーストケア」シリーズを展開する株式会社ビーシステムは、2011年にiPadやiPhoneなどのモバイル端末による現場での記録業務に特化した「ファーストケア・ポータブル」をリリース。介護報酬改定を控え、さらに機能を拡充させた同ソフトを紹介する。

【法人データ】
株式会社ビーシステム
川崎市麻生区上麻生1-5-2 日土地新百合ヶ丘ビル4F
TEL: 044-959-5885 URL: <http://www.fc-soft.jp/>



写真上は、「入所者一覧」(iPad)と「ケア記録一覧」(iPhone)の画面。写真下は、「カーデックス」による1週間のタイムシート

通信環境に依存せず現場での記録入力をサポート

「ファーストケア・ポータブル」は、株式会社ビーシステムが提供する介護保険業務管理ソフト「ファーストケア」シリーズにおいて、現場での記録システムへの記録（入力）を可能にしたケア記録アプリ「ケアレポ」だ。iPadやiPhone、Pod touchなどのモバイル端末に対応し、「経過記録」「食事・水分摂取」「バイタル」「入浴」「排泄」の5種類の情報を入力できる。紙への記録から移行しても違和感がないよう操作性に工夫を凝らしているほか、ITならではの効率的な一括入力や「写真」データの記録も可能。記録業務の大幅な効率化・標準化、職員間の情報共有に大きく寄与してくれる。

「お陰さまで非常に評判がよく、特養・老健の事業者様を中心に引き合いが急増しています。リリース後も現場の声も取り入れながら機能強化を図るとともに、小規模事業者様も導入しやすいよう、さらなる低価格化も実現しました」と同社の笠原正博代表取締役社長は自信を覗かせる。

同製品の特徴の1つは、クラウド

に100%依存するのではなく、入力したデータはいったん端末側に保存した後で、サーバーに情報を送る方法を採用していること。現場での記録をすべてブラウザ上で行い、オンラインで情報共有が図られることは容易だが、現実には無線通信環境の整備が困難なケースも少なくない。そのため、同ソフトはその場で記録した情報をまず端末内のアプリケーションに保存し、無線通信可能エリアで「送信」ボタンを押すことでサーバーと同期を図る仕組みになっている。

「施設内では居室によって無線通信が難しい環境などもありますから、いつでもストレスなく現場で記録するには、通信環境に依存しない端末内で処理するのがベストです。もちろん、無線通信環境が整備され



「iPhoneでの利用が多いかと想像していましたが、施設では圧倒的にiPadが人気。導入施設が急増しており、今後、ますます楽しみです」と話す笠原正博代表取締役社長